



九条を世界に！ 各地に九条の碑

ウクライナ、パレスチナの戦争を日々見させられるにつけ「戦争を始めてはいけない」という日本国憲法9条の精神の深い意味が今こそ世界に必要です。日本の各地に、そして世界各地に「憲法九条の碑」を建てようという活動があります。

沖縄から始まったこの活動は全国各地に広がっています。「九条の碑」を調べているジャーナリストの伊藤千尋さんは次のように語ります。「いつでも元気」 2023.12)

市民力としての9条の碑

ウクライナの戦争が始まって以来、岸田政権は防衛費の増額を唱え、九州の南に延びる南西諸島をミサイル基地化しました。政府による軍拡、さらに戦争に向けての国づくりが急速に進んでいます。

こうした状況のなか、コロナ禍で活動しにくい状況にもかかわらず、市民の側で着実に進んでいるのが憲法9条の記念碑を建てる運動です。

全国にある9条の碑を探し回り、23の碑の成り立ちを描いた『非戦の誓い』（あけび書房）を出版したのが昨年5月。それから1年半、今や全国で確認した碑は32を数えます。増えた9基のうち新たに建てられたのが7基、あとの2基はこれまで存在を知らなかったもの。さらに海外でも昨年11月、アフリカのジンバブエに完成しました。これで海外はスペイン、トルコに加えて3カ所になります。

なぜこれほど9条の碑が増えているのでしょうか。記念碑と言えば普通、過去の業績をたたえるもの。しかし、9条の碑を建てる運動は違います。今、平和憲法がないがしろにされ、世界に誇る戦争放棄の条項が消されようとしています。その背景にあるのは、9条の良さが国民にきちんと知らされていないこと。ならば9条を目に見える形にして広め、「9条を意識的に支える行動に多くの国民を奮い立たせたい」というのが9条の碑を建てる趣旨です。

昨年12月20日、NHKでも次のように報道されました。

2023年11月、室蘭市で「戦争の放棄」を定めた憲法9条の条文を刻んだ石碑の除幕式が行われました。その名も「憲法九条の碑」。同様の碑は全国にあり、最初に設置さ



沖縄那覇市与儀公園

れたのは、住民を巻き込み激しい地上戦が行われた沖縄です。平和への願いは南から北へ広がっています。

室蘭で碑の設置に尽力した男性の思いを取材しました。

戦争の歴史を刻んだ街、室蘭

「憲法九条の碑」は、室蘭港や工場群を見下ろす室蘭市海岸町の高台に建立されました。黒御影石の碑には「恒久平和」の文字と

ともに、「戦争の放棄」、そして「戦力の不保持」と「交戦権の否認」を定めた9条の条文が刻まれています。



北海道室蘭市

す。碑の高さは台座を含めると2メートルを超え、幅は70センチあります。

碑の設置を進めたのは「憲法を守る室蘭地域ネット」という市民団体の有志で、代表の増岡敏三さん（80）が中心となりました。碑の設置を目指した背景には室蘭市の戦争体験があります。78年前の1945年7月15日、大規模な軍需工場があった室蘭市はアメリカ軍の艦砲射撃を受け、400人以上が亡くなりました。その一方で、戦時中は多くの中国や朝鮮半島出身の人たちが工場や港で働いていました。「新室蘭市史」では、1800人以上の中国人が劣悪な労働環境に置かれ、約3割にあたる560人あまりが死亡したとされています。室蘭には、戦争の「被害」と「加害」どちらの歴史も刻まれています。

その後、百里基地にも九条の碑

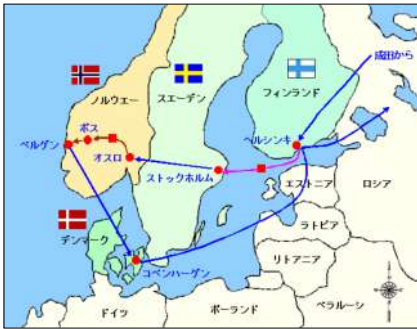
2月11日、茨城県の百里基地の敷地の中心に九条の碑が建ちました。軍事基地に反対して土地を売らなかった一坪地主の土地で「百里平和公園」と呼ばれています。基地の滑走路わきの誘導路はここを避けてくの字に曲がっており、この公園に九条の碑が建てられました。向かい側の丘にある射爆場の跡地には「自衛隊は憲法違反」と書かれた看板が1976年に設置されています。



スウェーデンがNATO加盟

スウェーデンがNATO（北大西洋条約機構）加盟について、2月26日、保留していたハンガリーの議会で採決が行われ承認されました。NATOは加盟国全体の承認で加盟が決まるため、ハンガリーの承認待ちでした。すでにフィンランドが4月4日に加盟しており、これにより世界最大の軍事同盟のNATOは32か国へと拡大します。

スウェーデンはナポレオン戦争以後は対外平和と国内民主化に努め、20世紀の両大戦にも中立を守って来ました。



長い間、中立を国の基本的な外交防衛方針としていたフィンランドとともに、ロシアのウクライナ侵攻をきっかけにNATO加盟へと動いたものです。

パレスチナ停戦を

イスラエルのナタニエフ首相は「停戦しても戦争を先延ばしするだけだ」といい、南部への攻撃を終わらせることはないと無慈悲な爆撃を続けています。

イスラエル軍はハマスの奇襲と人質作戦をきっかけにパレスチナ自治区への武力攻撃を始め、当初ハマスの拠点とみなす北部を空襲、南部への避難を勧告しました。

しかしその避難者を含め、広範囲の無差別爆撃を続けるばかりか、避難民への人道支援さえ妨害しています。

イスラエルによって「北部から避難せよ」と追い払われて南部ラファに、もともと20万人ほどの街に150万人ほどが押し寄せたのです。流山市ほどの人口のところに東葛全体の人々が集まったに等しいのです。「軍事的圧力をかけて厳しく交渉に臨むことが人質解放につながる」として、南部ラファへの地上作戦を強行し、パレスチナからハマスのだけでなく元の住民をすべて追い出そうとしています。

万一それが一時成功するようなことがあるとすれば、それは新たな、そして、より根深い恨みを残すことになるのは間違いないでしょう。直ちに停戦を！

2024流山憲法集会

5月11日(土)

会場：流山市生涯学習センター（エルズ）

13：30開場 14：00開会

講師 **川崎哲**さん（ピースボート共同代表）

プーチンの恐怖政治

2度も殺された？

反体制派の政治家ナワリヌイ

プーチン政権はあの私設の軍隊、プリゴジン率いるワグネルをウクライナ侵略の先兵として大いに利用し、残虐な虐殺と破壊を繰り返して、ウクライナを恐怖に陥れた。戦争犯罪を批判されるとロシアの正規軍ではないと言い逃れておきながら、ロシア国家から囚人を受け取って恩赦を餌に危険な戦線に投入して戦果を挙げた。

それを誇って正規軍を公然と批判し、軍幹部をなじり、ついにはクーデタまで起こすに及んで、限界を超えたとみるや、容赦なくプリゴジンの乗る機を撃墜暗殺した。

今度は反体制派の政治家ナワリヌイが獄中で突然死。彼は2020年には毒殺未遂事件で死の淵まで行ったが、ドイツで治療を受けて復活したが、帰国して逮捕、収監。

ソ連の元大統領ゴルバチョフがノーベル賞をもとに創



刊した「ノーヴァヤ・ガゼータ」は記者7人が殺されている。まさに恐怖政治だ。しかしそれでも葬儀をきっかけにした街頭デモが始まるなど反体制の動きの兆しもある。私たちに何ができ

るのだろう。

「沖縄スパイ戦史」を上映しました 次はどんな企画をお望みですか

九条の会では2月23日三上知恵監督の「沖縄スパイ戦史」DVD上映会を行った。参加者は19名。沖縄の人々はただ唯一の地上戦を戦わされただけでなく、国民として扱われず、若者たちもスパイの先兵として使われ、皇軍の都合が悪くなれば、秘かに殺された。軍の邪魔になると思えば、保護を装ってマラリアの島に住民を閉じ込めて命を奪った。

全編にわたって重い内容だが、われわれヤマトンチュー（日本人）が知らずに済ますことはできない。その犠牲になった人々の遺骨が眠る南部の土地を掘り返し、米軍基地の造成のための埋め立てに使われるのを見過ごすわけにはいかない。

（今後もDVD上映会などを行う予定です。ご意見、ご要望をお知らせください）

「九条の会・流山」宣伝と署名

◆3月9日(土) 15：30

おおたかの森駅自由通路

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130-5-464735 口座名 九条の会・流山

